

## 高知市医師会報（医見箱）

### 初期臨床研修

新臨床研修制度が開始され 10 年が過ぎ、今年も初期研修が 4 月からスタートし私達の病院にも新任医師がやってきました。この制度の基本理念は将来専門となる分野にかかわらず一般診療において頻繁に関わる負傷または疾病に適切に対応できる基本的な診療能力を身につけることとされています。研修病院にはこの基本的な診療能力が身につくような研修システムの提供が要求され、高知病院でも教育担当が常に研修方法を検証し改善を行ってきています。私達の時代は卒業後医局に入局し大学で研修した後、関連施設に出向するのが一般的で現制度と比較すると隔世の感があります。私も大学で 1 年研修した後、医局人事で関連病院ではなかったのですが呼吸器診療で実績のあった大阪の府立病院に出向しました。教授から出向するに当たり呼吸器一般の研修に加え気管支内視鏡検査手技の修得と人工呼吸管理を学んでくるようにと具体的に指示され、プレッシャーを感じたのをよく覚えています。各分野に全国トップクラスの先生がおり病院のレベルの高さに圧倒され知識の吸収に 1 日があつという間に過ぎていたように思います。臨床研究・基礎研究も盛んで学会発表、論文発表も非常に多く活動性の高い施設でした。少し自信を持って帰ってきましたが、最初の教授回診で担当医のいった病名 MCTD が何の病気かわからず取り残されたように感じ医局でやっていけるのか不安を感じたことを思い出します。他施設で研修した同期と比べ胃透視も胃カメラもできないこともコンプレックスとなり、内科一般を教室の先輩にいろいろ教えていただきました。当時医局には各分野に専門の先生がいて内科学における基本的診療能力を身につけることができたように思います。新研修制度は内科に限らず医師としての基本的診療能力を身につけるのが目標とされ研修内容が多岐にわたります。初期研修をスタートした研修医が目標達成に向け有意義な研修ができるように各科協力して支援していきたいと思っています。（大串文隆）